

## 今年度第2回の郷土史講座

### テーマ「戊辰戦争、最後の戦場となった橋場口」

#### 風雲急の中、秋田へ向かう鎮撫総督九条道孝公が臨濟寺に宿泊

明治維新の前夜、東北を戦乱に巻き込んだ戊辰戦争。その最後の戦場となった「橋場口の戦い」。戦闘の3カ月前には盛岡から秋田に転進しようとする奥羽鎮撫総督ら数百人が雫石村の臨濟寺に宿泊した。その時雫石の人々はどのように迎えたのか。

連作「盛岡藩の戊辰戦争」の著者が、風雲急を告げていたあの時の東北・秋田街道の緊張を熱く語ります。



戊辰の古戦場近く、橋場集落のはずれには「御番所跡」の碑が建っている

期日； 平成26年3月15日（土）

午後1時30分から3時ごろまで

会場； 町立中央公民館 2階視聴覚室

講師； 和井内 和夫 氏 [旧盛岡藩士桑田 元理事長]

当日は、①東北戊辰戦争の全体像 ②九条鎮撫総督の東北入りとその動き  
③橋場の戦いの主役「長崎振遠隊」とは ④盛岡藩の去就…檜山の決断  
⑤輪王寺宮と東北朝廷 ⑥当時の戦闘の実態 についても語ります。

本講座は一般町民にも公開します。

どうぞお知り合いの方もお誘いください。

### 第1回講座「戸沢氏…」に30名越す聴講者

当会の郷土史講座第1回の「戸沢氏、西木村ではどう語られてきたか」を2月16日(日)に開催しました。講師は奥羽山脈を越えたお隣り、秋田県仙北市西木町(旧仙北郡西木村)の前文化財保護協会会長 沼田欣治郎氏(82歳)。当日の聴講者は34名(うち史談会会員は14名)と、会場の中央公民館視聴覚室に用意した座席がほぼ満席となる盛況ぶりでした。



<写真；沼田欣治郎講師> 身手づくりの資料をもとに紹介しました。

この中で、沼田氏は「上桧木内に伝わる『野菊伝説』には、<戸沢兼盛が滴石に城を構えていた頃>、<野菊を一族として迎え入れた後、側近たちと一緒に滴石を去り、宝仙台

を経て上檜木内に移住した」という件(くだり)が出てくる。これは戸沢氏が滴石から移ってきたことを物語っていると思う。」と述べた上で、「奥羽の山並を越えて、雫石と西木に同じ話が伝わっていることは重要だ。」と語りました。さらに「南部雫石の古記録から」と注釈を付けた沼田氏自身が若いころ採話したとする「**滴石時代の兼盛が狩りの途中、城下に遠き矢櫃川のほとりで、楚々とした類なき容姿の美人『野菊』に出会った。**」という伝説も紹介しました。二つの伝説とも最後は「野菊は『北浦美人の祖』となった。」で終わっています。

また沼田氏は、自らが長年研究して来た郷土芸能の「ささら」についても、「秋田藩主の佐竹氏が常陸から出羽に国替えとなった時、『ささら』を先頭に立て、『悪魔払い』をしながらやってきた、と伝えられるが、戸沢家盛(伝・1386-1464。門屋城から角館城に移った当主)とも深い関係があるのではないか」と解説しました。



講演後の質疑では、「兼盛は滴石から宝仙台(岱)に移る際、『八幡平のふけの湯』を経由したとしているが、遠回りではないか?」との質問があり、沼田氏は「伝説ではそうだが、雫石の葛根田川最上流から山越えしたという説もある。」と答えました。

また「資料の地図内に『湯野(かたの)番楽』とあるがどのような芸能か。西和賀町左草地区にも『番楽』がある。」という質問もありました。これに対して沼田講師からは詳しい説明がありませんでしたので、当会事務局で調べた結果をお知らせします。

#### 《**湯野番楽**》 (仙北市指定無形民俗文化財)

かつては霜降り番楽とも呼ばれて、晩秋におこなわれていた山伏神楽である。湯野(旧西木村)ではそれまでに9月16日の釜杉神社(かますぎじんじゃ)の宵宮祭礼の時に奉納されてきた。石神番楽(旧田沢湖町)の流れを汲むものとされ、天保年間(1830~1844年)に最も盛んとなり、この頃に春山(旧田沢湖町)の鬼川三郎兵衛が師匠となり、湯野の猪本六右衛門(いのもとろくえもん)家において舞ったことが伝えられていることから、江戸時代中期ころには既にあったとされる。この番楽は霜月になると山伏たちが集まり一団をなして、霞を廻って番楽を演じたものが始まりとされ、それが民間にも伝えられるようになったといわれるものである。演目には、早舞・鳥舞・三番などがあり、舞の様子や謡などには古典的なものが多いとされて、囃子には太鼓、笛、手びらがね、それに板拍子というものがあった。番楽幕には丸に三つ巴の紋が染められている。面は4面しかないためにほとんどが素面で舞われた。 【仙北市教育委員会資料から】

#### 《**番楽**》

山伏が中心に行った神事や 呪法が宗教性を離れて変化したもののように故事や歴史をストーリー仕立てで演劇的に舞う一種の 神楽が発達した。おおよそ350~400年前頃のものである。娯楽として楽しんだり、伝承する者の 集まり(講)ごとに競い合うこともあったようだ。東北地方あたりでは番楽(呼び方は山形、秋田では 番楽、岩手では山伏神楽、下北では能舞などと異なる)と呼ばれる。 【秋田の行事・芸能情報から】

さらに、「『北浦』とは、秋田県のどの地域を指すのか?」という質問もありました。

沼田講師は「広くは秋田県北部を指す呼称のようだが、私どもは、古来の資料に出てくる旧仙北郡(山北郡とも)の北部である旧 田沢湖町、同 西木村、同 角館町の地域を指す意味で使っている。」と答えました。

なお、講座終了後出席者から「資料の系図欄・初代「衡盛」の名に「ひで(もり)」とフリガナがついている。間違いではないか?」との指摘がありました。当方では以前から気付いておりましたが、これは原本の「西木村郷土誌・戸沢系図」における誤植のようです(当時の西木村教委担当)。正しくは「ひらもり」ですので訂正いたします。ご指摘ありがとうございました。 **以上。**

(当日欠席した会員にはこの会報とともに講座資料をお配りします。)

**あとがき**……3月15日の講座のお知らせのために会報を発行しました。あわせて2月の第1回の講座の結果・内容についても掲載しました。どうぞご覧ください。

当会では現在、①**昨年の8・9豪雨災害における町民の体験談聴取り**、②**史談会ホームページの立ち上げ**、の活動に有志で取り組んでいます。次号ではその内容についてお知らせできると思います。寒の戻りが来ています。くれぐれもご自愛のほどを。(S)

